

予算	決算書			目名	事業名称
	款	項	目		
	6	2	1	224 頁	畜産業振興費 乳・肉用牛改良促進事業

## 1. 概要

目的	生産性の向上のために改良速度を速める。	対象	畜産農家
	<p>○種雄牛造成推進事業: 種雄牛造成を推進し、畜産農家の和牛改良意識の高揚を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種雄牛造成を推進し、肉用牛の改良を行うため肉用牛改良組合が認定する指定牛に指定交配を行うにあたり指定交配種付助成を行った。</li> </ul> <p>○優良雌牛確保対策事業: 地域で特色を持った雌牛を保留し、次の世代に引き継ぐ再構築を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統牛・指定牛及び県有種雄牛の産子の保留・導入に対し100千円の助成。</li> <li>・上記以外の保留・導入に対し50千円の助成。</li> </ul> <p>○繁殖雌牛の若返り対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繁殖雌牛の若返りと血統更新を促進するため、肉用牛繁殖農家が高齢な繁殖雌牛を淘汰し、遺伝的能力又は血統的に優れる繁殖用若雌牛を導入することに対して助成した。</li> <li>・導入頭数: 14頭 補助率: 県1/3(上限75,000円) 市1/6(38,000円)</li> </ul>		
事業概要	<p>○優良乳用牛導入事業: 高能力な初妊牛を県外から購入し個々の経営内の改良増殖に対し支援し経営の安定・強化に取り組んだ。</p>		

## 2. 指標設定

成 果 指 標	指標名	特色ある基礎牛の造成	目 標 年 度	H27	指標の設定理由			
	数値	—			安全・安心で高品質な畜産物の产地として信頼される基盤づくり			
活 動 指 標	指標	a 但馬牛保有率	b SCD遺伝子検査	c 乳用牛生産乳量	d			
	数値	目標 30%	目標 —	目標 8,000kg	目標			

## 3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
特色ある基礎牛の造成	—	—	—	—
	—	—	—	—

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 但馬牛保有率	%	23.5 %	27.4 %	30.2 %
		78.3 %	91.3 %	101.0 %
b SCD遺伝子検査	頭	440 頭	380 頭	—
		100.0 %	86.4 %	—
c 乳用牛生産乳量	kg	7,259 kg	7,563 kg	7,636 kg
		90.7 %	94.5 %	95.5 %
d		—	—	—
		—	—	—

## 4. 課題と対応

課題
近年、配合飼料価格の高騰や疾病の発生、相場の変動等々と変動しており、経営状況は非常に厳しく改良速度が思ったより進まない。
対応（改善点等）

農家の基礎牛の調査を行い能力の低いものは淘汰し改良速度を速める。

## 5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

決算額（千円）	H23	H24	H25	H26
	16,169	19,070	10,732	15,927
うち経常経費	12,800	16,710	9,150	15,927
財源内訳	国 費			
	県 費	1,725	1,125	1,050
	市 債			
	そ の 他			
	一般財源	14,444	17,945	9,682
	うち経常	12,800	16,710	9,150
事業費に係る人件費	7,998	5,840	4,795	3,548
事業費に係る人役	1.86	1.36	1.10	0.80

## 7. 担当課による分析

着眼点		分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	生産基盤の弱体化を招いており、畜産物の価格に大きな変動が起きていることから、早急な対応が必要である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3	改良は、常に時代を担うもので、市・JAが中心となって推進していく。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1	本事業は乳・肉用牛農家の所得向上を目指すものである。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3	短期間での事業の取組が必要なことから目的達成のために必要。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2	景気低迷により経営状況は非常に厳しく改良速度は思ったより進まない。

## 8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	農業振興計画に基づき、事業を検証し推進すること。

